

行事報告

Workshop 2017 Department of Material Science and Engineering, National Taiwan University–Joining and Welding Research Institute, Osaka University

勝又 美穂子

広域アジアものづくり技術・人材高度化拠点形成事業 極限環境対応グローバル接合部門 特任准教授(常勤)

2017年5月19日(金)、当研究所と国立台湾大学材料科学工学学科との間で当研究所荒田記念館にて”3rd MSE-JWRI Workshop on Materials Design and Joining”と題したワークショップを開催しました。本ワークショップは国立台湾大学との間で2年に一度のペースで会場を大阪と台北交互に設定し開催しているものであり、今回は第3回目の開催となりました。ワークショップには国立台湾大学より6名の教員と6名の学生が来訪しました。国立台湾大学の教員6名及び当研究所の教員6名が口頭研究発表を実施したほか、午前と午後セッションの間にポスターセッションを開催し、国立台湾大学学生6名と当研究所学生8名、合計14名の学生から各5分程度の発表を行いました。

教員が実施した口頭発表は材料科学分野からアディティブマニュファクチャリング及びレーザ加工技術に関する分野まで幅広いものとなりました。学生のポスターセッションでは、慣れない英語での発表に緊張する姿も見られましたが、このよう

な比較的小規模なワークショップならではのアットホームな雰囲気、学生にとっては研究発表・及び海外大学との交流において良い経験になったものと思います。

また、ワークショップ終了後には当研究所の3つの研究施設について見学を行い、充実したデモンストレーションに対し、多くの質問が飛び交いました。

国立台湾大学とはこれまでも主に、博士留学生の受け入れ及び、JST さくらサイエンス事業を通じた短期受け入れと共同研究の実施などで交流を深めてきました。本ワークショップを定期的で開催することで、それらの交流がより確実なものとなり、また多方面に展開を見せていることは喜ばしい成果と言えます。夕刻に開催された懇親会では、当研究所と国立台湾大学との末永いフレンドシップが約束されました。

今後も更なる国際共同研究の発足などを目指し、引き続き密接な交流を継続する予定です。

